

# 下野市立細谷小学校

## 1 学校課題

### (1) 研究主題

子供一人一人が自分の思いや考えを伝え合う力の育成  
～少人数学級の特性を生かしたコミュニケーションを図る場と言語活動の位置づけ～

### (2) 研究の仮説

- 仮説1 少人数学級の特性を生かし、コミュニケーションを図る場を工夫すれば、子供が自分の思いや考えを伝え合う態度が身につくのではないだろうか。
- 仮説2 各教科の学習指導の中で言語活動を充実させることにより、子どもの語彙力等が増し表現力が身につくのではないだろうか。

## 2 研究計画

月	研修内容
4	・学校課題研究についての共通理解
5	・学級の児童の実態把握とめざす児童像、学級像の明確化 ・指導案検討
6	・指導案検討
7	・学校課題授業研究会 授業 全学年外国語活動 ・学校課題授業研究会 授業 2年学級活動
8	
9	・指導案検討
10	・学校課題授業研究会 授業 1年道徳
11	・指導案検討会
12	・学校課題授業研究会 授業 5・6年道徳
1	・学校課題 成果と課題
2	・研究の反省
3	・次年度の計画

## 3 研究内容

### (1) 主な研究内容

- ① 1単位時間におけるコミュニケーションの場の設定
- ・国語科においては「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」
  - ・各教科の特質を生かした場の工夫
- ② 個に応じた指導の工夫
- ・学習の共通実践事項に基づいた授業の展開
  - ・各種テストの分析結果を生かした指導
- ③ 言語活動の充実
- ・各教科の指導計画の中での言語活動の位置づけ
  - ・学習環境の整備（学習コーナーの設置や発表話型の見直し）
  - ・辞書引用の習慣化と新聞記事の活用

### (2) 研究の実際

#### ① 第1回授業研究会

全学年 外国語活動「買い物ゲームをしよう」

外国語におけるコミュニケーションを図る場として、「お店屋さん」の授業を設定した。英語で買い物をする場合必要となる言い方や単語を練習した。ほしい物を相手に伝える言い方を数パターン示したので、



低学年の児童も抵抗なく取り組むことができた。授業の後、親子でA L Tの「お店」で買い物を楽しむ活動を行い、児童は学んだことを生かして言葉のやりとりをしていた。



#### ②第2回授業研究会

(指導者 宇都宮大学教育学部准教授 上原秀一先生)

2年 学級活動 「危険から身を守る」

事故や事件から身を守るために注意することについて、役割演技を取り入れて話し合わせた。具体的な状況を設定し、動いてみることで、児童が活発に考えを言うことができた。授業後の研究会では、児童同士が話し合えるとさらによいという意見が出された。

#### ③第3回授業研究会 (指導者 下野市教育委員会指導主事 高橋修一先生)

1年 道徳 「はしのうえのおおかみ」(親切)

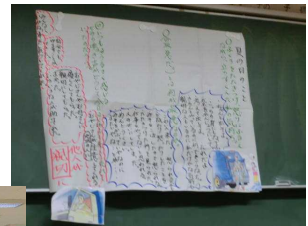
役割演技を取り入れ、おおかみの気持ちをより深く考えて話し合うことができるようにした。机の配置や補助発問も1年児童が話しやすいよう考えた。研究会では、学校として目的を持った言語活動の位置づけを行うことや聴く力・多様な考えを受け入れる力の育成について研究を深めるよう助言をいただいた。

#### ④第4回授業研究会

(指導者 宇都宮大学教育学部准教授 上原秀一先生  
下野市教育委員会指導主事 高橋修一先生)

5・6年 道徳 「夏の日のこと」(親切)

黒板の代わりに模造紙を利用し、そこに書き込みながら話し合いを進めた。また、模造紙を取り囲むように机を配置し、互いの顔を見ながら話を聞いたり考えを述べたりできるようにした。全員が話し合いに参加し、活発に意見が出ていた。研究会では、児童自身をもっと考えを深め合えるとよいつの意見が出された。



## 4 本年度の成果と課題

### (1) 成果

- ・ 学年の発達段階に応じて、児童にとって発表や話し合いがしやすい方法を考えた。(役割演技、机の配置、話し手と聞き手との距離 など) 児童は、発表や話し合いにスムーズに参加することができた。
- ・ 算数や理科、社会などでは、図や表を使って自分の考えを伝える場を意図的に設定した。より分かりやすく伝える方法を児童が身につけることができた。
- ・ 児童一人一人の良さを認めることができた。また、目標の達成が難しい場合は、速やかに支援を行うことができた。
- ・ 各教室内だけでなく校内の掲示なども充実させ、学習環境を整えることができた。

### (2) 課題

- ・ 児童が自分たちで話し合いを進める力を身につけることが大切である。力をつけるための指導の手立てや、教師のかかわり方について研究を深めたい。
- ・ 少人数であるため、多くの人の意見を聞いて高め合うということが経験しにくい。全校活動など学年の授業以外の場で補充しているが、効果的な方法をさらに工夫したい。
- ・ 指導計画への言語活動の位置づけや、発表話型については、各学年では検討・研究したが、全体で研修する機会が足りなかった。研修の時間を取り、協力して取り組みたい。